

子供たちの学びを地域で支える

市町村名		推進組織名			関係学校名						
涌谷町		元気わくやふれあい町づくりサポートセンター（涌谷町地域学校協働本部）			涌谷中学校，涌谷第一小学校，月将館小学校，篁岳白山小学校						
		設立年度	教育委員会・担当課		関係学校学級数	児童生徒数					
		H22	涌谷町教育委員会生涯学習課		37学級	1,070人					
統括的な地域学校協働活動推進員数		統括的なコーディネーター数	地域学校協働活動推進員数	コーディネーター数	地域連携担当数	登録ボランティア数					
0人		0人	0人	4人	4人	62人					
活動目標	学校・家庭・地域が協働して子供を育てる環境づくりを推進し，学校と地域で子供達の学びを支える協働許い体制の構築を図る。										
【連絡先】	所在地			電話番号		FAX番号					
	〒987-0147 宮城県遠田郡涌谷町字下道69番地1			0229-43-3001		0229-43-3536					
協力企業・団体・大学・NPO等				E-mail	gr-gakushu@town.wakuya.miyagi.jp						
家庭教育支援チーム				URL	http://www.town.wakuya.miyagi.jp/						
涌谷町の概要											
人口	16,302人	割合	65歳以上	34.7%	面積	82.16km ²	学校数	幼・保・こ	6園	産業等	農業
			15～64歳	46.4%			小学校	3校			
			0～14歳	17.2%			中学校	1校			

これまでの経過

- ・平成22年9月に元気わくやふれあい町づくりサポートセンターを立ち上げ，学校支援本部事業として開始した。
- ・支援対象は，町内全ての学校区，全ての校種を対象に学校支援や，学校とともに地域行事等へ参画している。
- ・支援内容は，特別講師，体験活動，安全見守り，環境整備等多岐にわたっている。
- ・平成23年4月より放課後子ども教室を開始した。
- ・平成28年4月より評価・検証委員会を立ち上げ，各事業の実施に伴い，被災地における課題や効果測定，事業の評価・検証を開始した。

地域学校協働活動

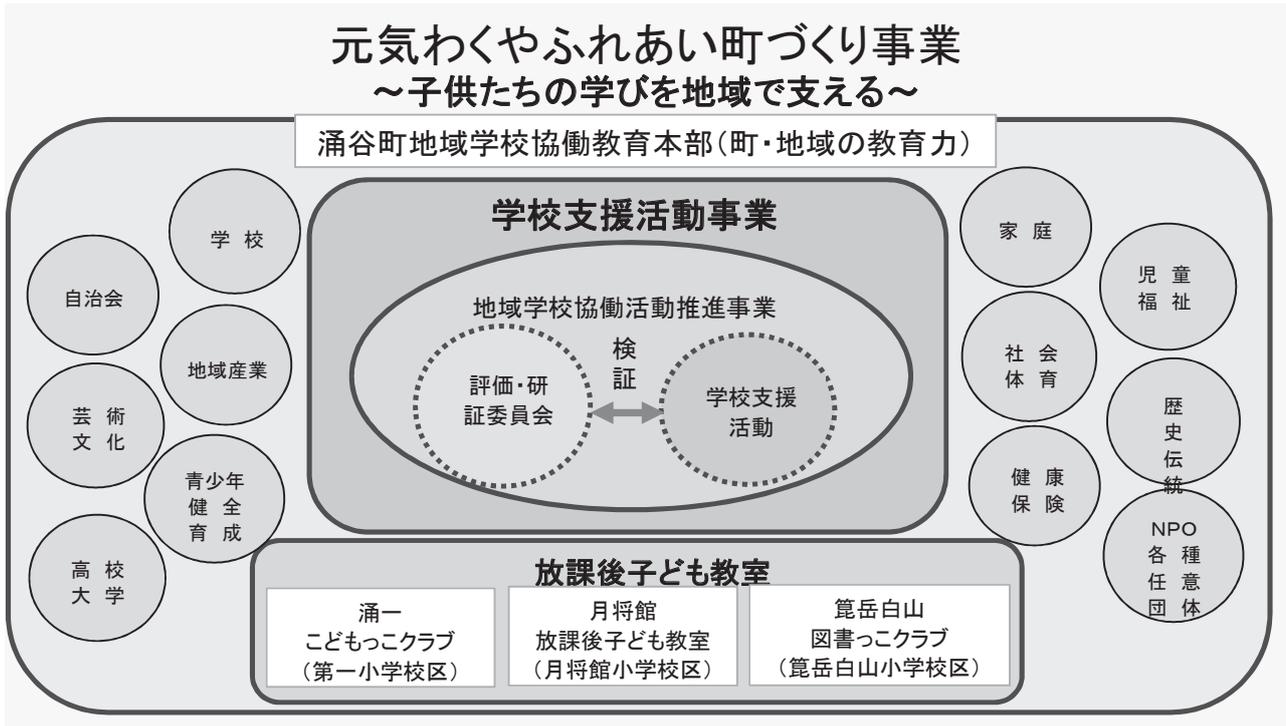
●学校支援活動	●家庭教育支援活動	●地域活動	●放課後子ども教室
安全見守り，学習支援活動，読み聞かせ，学校行事支援，環境整備，世代間交流，その他	—	—	涌一こどもっこクラブ 23人（自由遊び，読み聞かせ等） 月将館放課後子ども教室 40人（各種体験学習，伝承遊び等） 篁岳白山図書っこクラブ 自由参加（読み聞かせ，授業の復習）

工夫している点

- ・元気わくやふれあい町づくりコーディネーター4名を中心，得意分野を活かして地域で活動している家庭教育支援チームに，学校支援活動などの指導・サポートを目指した体制作りを確立している。
- ・4名の元気わくやふれあい町づくりコーディネーターで学校と地域の橋渡しを行って，家庭教育支援チームが講師の方や地域ボランティアの方々のサポートを行っている。

行政の支援や取組

- ・元気わくやふれあい町づくり定例コーディネーター会議の開催及び支援内容の検討。
- ・元気わくやふれあい町づくりコーディネーターや放課後子ども教室スタッフの紹介等による新規ボランティアの人材確保。



特色ある活動事例

・元気わくやふれあい町づくりコーディネーター4名，涌谷町家庭教育支援チーム2団体を中心に，町内の幼稚園，保育所，小中学校，学童クラブの事業支援に対応。



涌谷第一小学校「家庭科学習支援」



月将館小学校「ふるさと交流会」



笥岳白山小学校「絵手紙講座」

活動の成果

・この事業は，携わる運営スタッフや子供たちや学校のためを思う地域ボランティアの支えにより成り立つ事業であり，学校や子供達のためだけではなく，地域の方々の生き甲斐づくりにつながっている。

今後の活動に向けて

・子供たちや学校のためを思うボランティアの熱意と，今まで築いてきた学校・家庭・地域の信頼関係を大切に，これからも『出来る支援をできるときに，できることから』を合い言葉にした活動を行い，地域住民の方々の協力をもらいながら，よりよい協働教育を推進していきたいと思ひます。

これから着手する予定

市町村名		推進組織名			関係学校名						
美里町		—			—						
		設立年度	教育委員会・担当課		関係学校学級数	児童生徒数					
		—	美里町教育委員会教育総務課		—	—					
統括的な地域学校協働活動推進員数	統括的なコーディネーター数	地域学校協働活動推進員数	コーディネーター数	地域連携担当数	登録ボランティア数						
0人	0人	0人	0人	0人	0人						
活動目標	家庭・学校・地域がそれぞれの役割を果たし、相互に連携・協力することで、家庭及び地域における教育力の向上を図る。また、学校教育を充実させるために地域住民が一体となって取り組んでいく地域社会を目指す。										
【連絡先】	所在地			電話番号	FAX番号						
	〒989-4205 遠田郡美里町木間塚字中央1番地			0229-58-0500	0229-58-2376						
協力企業・団体・大学・NPO等			E-mail	kyoiku@town.misato.miyagi.jp							
町内地区コミュニティセンター等(6地区)			URL	http://www.town.misato.miyagi.jp							
美里町の概要											
人口	24,597人	割合	65歳以上	33.6%	面積	74.95km ²	学校数	幼・保・こ	5園	産業等	農業、製造業、建設業、小売業
			15～64歳	55.1%				小学校	6校		
			0～14歳	11.3%				中学校	3校		

これまでの経過

平成26年度から学区ごとの各地区コミュニティセンター等において、協働教育プラットフォーム事業として、週末子ども活動支援や世代間交流を実施し、現在も継続している。地域スタッフが子供たちへの指導に当たっている(30人)。

また、子育て世代が多い地区において、保護者及び幼児同士の交流と情報交換の場として、子育てサロンを開催している。

地域学校協働活動

●学校支援活動	●家庭教育支援活動	●地域活動	●放課後子ども教室
学校行事として実施している農業体験や植栽を通した世代間交流	子育てサロン、幼稚園保護者対象の「親のみちしるべ」	ちびっこ相撲大会、週末や長期休暇における子供体験活動(学区毎に実施)	—

工夫している点

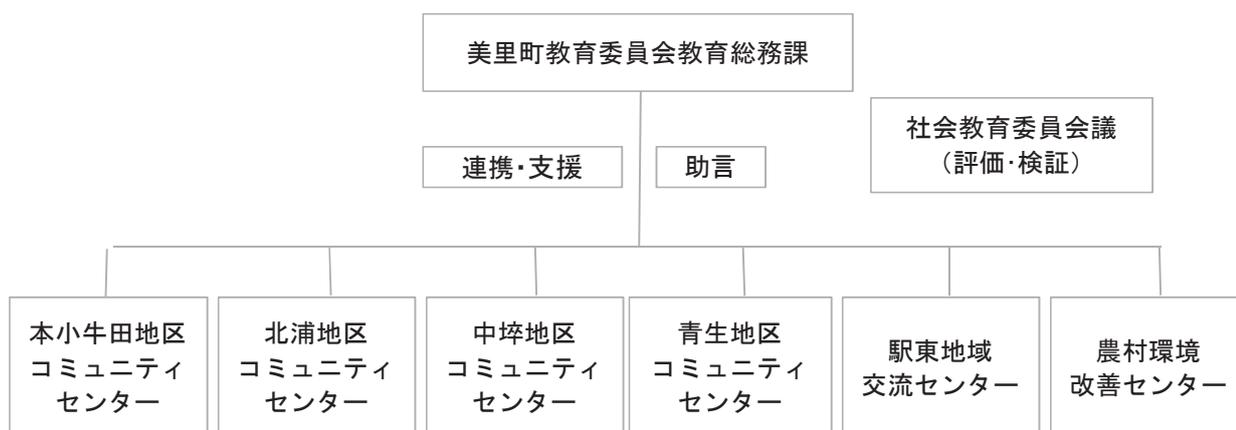
各地区コミュニティセンターを地域の拠り所として、従来あった地域毎の学校との連携を活かして、世代間交流や週末子ども活動支援を行っている。

子育てサロンは気軽に参加できるように自由参加とし、親子だけでなく、地区住民やボランティア等と交流する機会を設けている。

行政の支援や取組

- ・社会教育主事、社会教育委員からの助言等

各地区コミュニティセンターでの事業計画時に社会教育主事が助言している。また、社会教育委員会において評価・検証を行っており、より効果的な方法や改善点について協議している。



特色ある活動事例

「ふどうどう子育てサロン『よつばカフェ』」

会場：駅東地域交流センター

毎月1回、センター周辺の公園や多目的ホールにおいて、就学前の幼児と保護者を対象に自由参加のカフェを開設している。

センターでは交流の場を提供し、子供たちはボール遊びや折り紙・塗り絵の交流体験、保護者は情報交換の場となっている。平成29年度と30年度には、保護者同士の交流を深める機会として、ヨガ教室を開催した。

センター周辺は分譲団地（約500世帯）があり、子育て世代が多いため、カフェを通じた保護者同士の交流の輪が広がった。また、自由参加のため、周辺住民やボランティアも一緒に交流する場となっている。



【お母さんたちの憩いの場】



【広場で楽しく遊ぶ子どもたち】

活動の成果

地域ボランティア等の指導により、子供たちが地域の伝統文化に触れたり、集団で様々な体験活動を行うことで地域への理解と愛着が育まれた。また、保護者にとってもボランティアの存在を知ることによって地域とつながる機会を持つことができた。

子育てサロンでは、対象地区が町外からの転入者が多いことから、参加することで同じ地域の人たちと交流が図られ、地域を知るよい機会となっている。

幼稚園保護者を対象に、県家庭教育支援チームの派遣事業「親のみちしるべ」を実施した。参加者からは、「日ごろの悩みが解消した」、「これからの子育てに役立てたい」等の感想が寄せられ、家庭教育支援の一助となった。

今後の活動に向けて

これまでの活動を継続しつつ、学校と地域の連携をより深める取組みについて検討していく。（放課後に学校へ地域ボランティアが赴き、昔遊び体験や学習支援を行う等）

これから着手する予定

市町村名		推進組織名			関係学校名						
栗原市		-			-						
		設立年度	教育委員会・担当課		関係学校学級数	児童生徒数					
		-	栗原市教育委員会社会教育課		-	-					
統括的な地域学校協働活動推進員数		統括的なコーディネーター数	地域学校協働活動推進員数	コーディネーター数	地域連携担当数	登録ボランティア数					
0人		0人	0人	8人	20人	0人					
活動目標		-									
【連絡先】		所在地			電話番号	FAX番号					
		〒989-5171 栗原市金成沢辺町沖200番地			0228-42-3514	0228-42-3518					
協力企業・団体・大学・NPO等				E-mail	shakaikyoiku@kuriharacity.jp						
栗原市家庭教育支援チーム, 青少年のための栗原市民会議, 栗原市子ども会育成連合会, 栗原市PTA連合会, 栗っこ農業協同組合, 栗原市連合婦人会, せみねっ子を育てる会, (株)花山サンゼット, 栗原市社会福祉協議会, 若柳図書ボランティア「ぼっかぽか」, よみきかせ「おひさま」計11団体				URL	-						
〇〇市町村の概要											
人口	68,328人	割合	65歳以上	38.3%	面積	804.97km ²	学校数	幼・保・こ	24園	産業等	農業, 林業, 製造業, 建設業, 加工業, 小売業, 観光
			15~64歳	51.8%				小学校	12校		
			0~14歳	9.9%				中学校	8校		

これまでの経過

- ・家庭, 地域, 学校の連携, 協働により地域の教育力向上や活性化を図り, 地域全体で子供を育てる体制を整備するため, 平成22年度から本事業を開始。
- ・以来, 栗原市協働教育推進委員会を設置し, 市の協働教育推進について協議, 情報交換を行い, 学校支援活動, 家庭教育支援活動, 地域活動など地域の実情に応じた特色ある活動を継続して実施。
- ・地域学校協働本部については, 地域, 学校及び教育委員会を繋ぐ組織として, 栗原市協働教育推進委員会等において今後検討。

地域学校協働活動

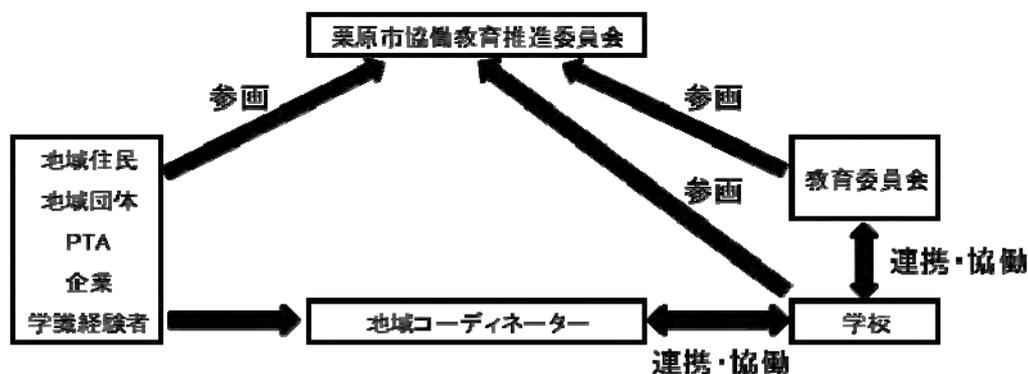
●学校支援活動	●家庭教育支援活動	●地域活動	●放課後子ども教室
安全見守り, 学習支援活動, 図書整備, 読み聞かせ, 学校行事支援, 環境整備, 職場体験, 自然体験, 世代間交流, あいさつ運動, 部活動指導, その他	家庭教育学級の推進, 家庭教育学級講師謝礼助成事業の実施, 家庭教育サポーターの支援	人形劇まつり, 冬休みおはなし会, ハロウィンパーティー, ふれあいクリスマス会, 書初め会・作品展	-

工夫している点

- ・実践発表会又は研修会を開催し, 地域住民の協働教育への理解を深めるとともに活動の普及と推進を図っている。
- ・協働教育の取組状況を学校だより等で紹介するなど, 活動の普及啓発を促進している。

行政の支援や取組

- ・学校支援活動
学校が地域において更に開かれたものとなるよう, 地域人材の活用を積極的に行える体制づくりを支援 (協働教育推進指定校活動報償費の支給, 消耗品に係る経費の負担など)。
- ・家庭教育支援活動
保育所, 幼稚園, 小学校, 中学校が行う家庭教育学級の講師謝礼を助成。
- ・地域活動
行政や地域コーディネーターを中心に地域住民が支援ボランティアとなり, 地域の子供たちの体験活動の場を企画・運営・支援 (講師謝礼の助成, 消耗品に係る経費の負担)。



特色ある活動事例

- ・平成29年12月に文部科学省において、地域学校協働活動推進に係る文部科学大臣表彰式が行われ、花山小学校協働教育推進委員会が表彰された。この委員会は、小学校と地域が共に児童の教育を担うため組織されたもので、地域の方々に講師に、林業体験や沢遊びなど、年間約40回の授業を行ってきた。地域の自然環境や産業を活かした活動は、教育環境の充実はもちろん、過疎化の進む地域の活性化にもつながっている。
- ・主な活動は、学習支援、学校行事支援、環境整備活動への支援である。主な内容としては、福祉教育の一環でもある花山小学校「さくら岡まつり」で児童自ら企画・運営を行い、地域の高齢者を招待してお祭りを開催し、出店で遊んだり、地域の方々と一緒にブースで楽しんだりしながら交流を深めている。また、山間地ならではの地域資源を活用した「きのこ栽培」「林業体験」「ネイチャークラフト体験」「沢遊び」「こんにやくづくり」などを通じて、多くのことを学び、地域への愛着を育てている。



花山小学校（沢登り体験活動）



花山小学校（林業体験・間伐活動）

活動の成果

- ・文部科学大臣表彰を受賞するなど、家庭、地域、学校が協働して「地域の子供は地域で育てる」体制づくりに対する地域住民の意識が高まっている。また、地域の伝統文化や特色など、地域の良さを子供たちへ伝える機会ができ、志教育にも繋がっているほか、子供たちとの交流が地域住民の生涯学習の場となり、生きがいくくりにも繋がっている。

今後の活動に向けて

- ・全ての小中学校に地域連携担当が配置され、学校教育と社会教育の連携が益々必要になり、学校と協議し進めるための相応しい人材が必要である。また、地域コーディネーターとして関わっていただけの方も高齢化しており、新たな人材探しが必要である。まずは、協働教育推進委員会を発展させて地域学校協働本部の組織化を検討していく。
- ・今後も本事業を中心とした様々な学びをより一層深めていくとともに、家庭、地域、学校（教職員）の理解を得ながら、「地域の子供は地域で育てる」体制づくりを構築していく。